

2年生 ウサギさん大好き わくわく大作戦 内容(7)(8)

1 単元の構想

本単元は生活科の内容(7)(8)

(7)「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらを育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみを持ち、大切にしようとする。」

(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさがわかるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」

と、関わっているものである。

(1) 子どもの思いと教師の願い

本学級の子どもたちは、1年時からカブトムシやカメなどを教室で飼育してきた。「さなぎが動いている。生きてるんだ。」「今度はカメが脱走しないように、もっと高さのある水槽にしよう。」などと生き物が好きになる子どもたちが増えてきた。2年生なり、プールで採ったヤゴを助けようと熱心に様子を見たり餌をやったりしてトンボになり、飛び立つ姿を見送った経験をしている。

本単元では、熊谷市立桜木小から譲り受けた子ウサギの継続的な飼育活動を通して、ウサギの好む場所、変化や成長の様子に関心をもたせたい。また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみを持ち、大切にできるようにすることを目指したい。

さらにウサギの成長の様子やできごとを、ウサギの故郷「桜木小学校」の友達と交流する活動は、相手のことを思いながら、伝え合う活発な活動が生まれ、人と関わる活動のよさや楽しさが分かり自ら生活を豊かにする子どもを育成することができると思う。

(2) 単元目標

ウサギの継続的な飼育活動やその様子を伝え合い交流する活動を通して、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

(3) 評価規準

知識・技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギが変化し、成長していることに気づき、生命をもっていることやその大切さに気付いている。 ・ウサギの様子を伝え合う活動を通して、伝える楽しさやよさに気付いている。 ・世話ができた自分自身を振り返り、自分の成長に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギの変化や成長の様子について、比べたり予想したりしながら、ウサギが元気に育つように働きかける。 ・ウサギの飼育を通して、成長の様子やできごとを自分なりの絵や言葉で表現し、相手のことを思い浮かべながら、伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギの飼育を通して、どんな生き物に対しても親しみや関心をもって働きかけようとする。 ・生き物に心を寄せ、生命あるものに愛着をもって接しようとする。

(4) 本単元の位置づけ

月	単元名	学習活動
4	1年生となかよし(8・9)⑥	ウサギさん大好きわくわく大作戦(7)(8)⑫
5	まくはりの町発見(3)⑧	春やさいをそだてよう(7)⑤
6	ヤゴ救出作戦(7)⑥	
7	まくはりの名人さん 大発見(3)(4)⑮	
8	おもちゃ名人大集合(6)⑱	
9	大きくなった自分大発見(9)⑳	
10		
11		
12		
1		
2		
3		

○1年生を歓迎する会や学校案内など、1年生と楽しく過ごす。
○1年生のとき、育てたアサガオの種を1年生にプレゼントし、アサガオの種の植え方を教える。

○学区を探検したり、公民館を利用したりする。

○プールにいたヤゴを採集し、大切に世話をする。

○幕張の町の名人さんを探す
○町探検をしながら、住む人や働く人と関わる。

○身近なものを使って、ゴムで動くおもちゃを作る。
○おもちゃ作りの名人さんから、工夫するところを教わる。
○おもちゃランドを開く。

○自分の成長を振り返る。
○できるようになったことを発表する。

○ウサギの世話の仕方について、話し合い興味をもつ。
○継続的に飼育委員と一緒にウサギの世話をする。
○自分たちで育てた野菜を育てた野菜をウサギの餌にして食べさせる。
○飼育委員会の児童から、抱き方や名前を教わり、ウサギの世話をする。
○動物公園に行き、動物と触れ合う。
○桜木小からウサギをもらっていたことを知り、ウサギの成長した様子を桜木小の友達に知らせる。
○桜木小の友達と、ウサギの成長について伝え合う。
○ウサギを大きく元気に育てるためどう支援していいか話し合う。
○ウサギが食べられる野菜や雑草について調べる。
・家でいらなくなった野菜をもってきてもらうように全校に呼びかける。
○獣医さんを招いてウサギの世話の仕方について聞く。
○ウサギの気持ちを考えて住みやすい場所をつくる。
○1年生にウサギのことを伝え、飼育のことに伝える。
○桜木小の友達にウサギのことを伝え交流する。

○自分で育てたい野菜を育てる。
○ウサギの糞を使って、野菜の肥料作りをする。
○収穫してみんなで味わう。
・サツマイモ
・ポップコーン
・小松菜

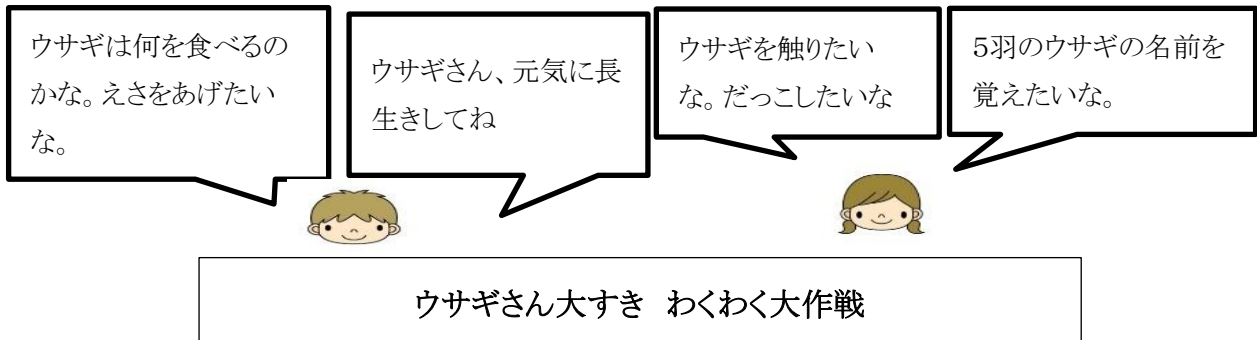
秋やさいをそだてよう(7)⑤

○育てたい秋野菜を考える。
○ウサギの糞を使って、野菜の肥料作りをする。
○みんなで育てる。
○まびいた野菜をウサギの餌にする。
○収穫してみんなで味わう。
・ほうれん草
・みつ葉
・こかぶ
○1年間育ててきた野菜の栽培活動を振り返る。

(5) 本単元の学習活動の流れ

①単元構想

<子どもの思いや願い>



ウサギの世話をしよう	幕張小のウサギについて知ろう	ウサギによろこんでもらおう
<ul style="list-style-type: none"> ○餌をやる。 ○小屋の掃除をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ウサギの育て方を知る。(本時) ① ○どこからウサギが幕張小にきたのか知る。① ○ウサギのこと・ウサギの成長を 	<ul style="list-style-type: none"> ○ずっと元気で大きく育つためにしてあげたいことを話し合う。② ・えさについて ・小屋について ・遊び場について ○ウサギによろこぶことを実行する。⑤ ・小屋の改修 ・日陰のための屋根作り ・餌の栽培 ・運動広場
<p><期待する子どもの姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ○喜んで野菜を食べさせる。 ○ウサギが元気になるように、掃除をする。 <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年生が飼育活動の常時活動にし、飼育委員会児童から教えてもらう。 	<p><期待する子どもの姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ○季節によってウサギの体の変化することに気付く。 ○ウサギ1羽1羽ずつに愛着をもつ。 ○桜木小との交流から、ウサギへの親しみや関心を深める。 <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ○獣医師会と連携した訪問指導を行う。 ○桜木小との交流を図り、子どもたちが考えた方法で伝え合うことができるようにする。 	<p><期待する子どもの姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウサギの気持ちになって元気になることを考えさせ、世話をする。 ○ウサギが住みやすい小屋になるように考える。 ○ウサギが元気になる遊び場を工夫する。 <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの困り感に対応し、声掛けをしたり、必要なものを用意したりする。

ウサギについてつたえよう

<ul style="list-style-type: none"> ○1年生にウサギの世話を伝えよう。 <p><期待する姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウサギに愛着をもち、大切にしようとする。 ○1年生を教えている自分から、自分自身の成長に気付く。 	<p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生と活動する場を設ける
---	---

② 単元の流れと評価計画（全12時間）

学習内容	評価の視点	手立て
<p>◎ウサギの世話の仕方を教わる。 （常時活動）</p> <p>◎ウサギの世話をする。 （常時活動）</p> <p>（本時）（市教研）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育委員児童に教わりながらウサギ当番をすすんで行う。＜行動＞＜つぶやき＞（思考・表現） ・ウサギの様子を気にかけて餌の量や、糞掃除など、世話をしている。＜行動＞【知・技】 ・ウサギに餌をやったり触ったりしながら興味や関心をもつ。＜行動＞【学び・人】 ・ウサギが元気に育っていることを喜んでいる。＜つぶやき＞【学び・人】 ・ウサギの成長を楽しみにしている。＜行動＞【学び・人】 ・人や生き物とかかわる活動を楽しんでいる。＜行動＞【学び・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ○飼育委員会児童と一緒に活動することにより、餌の量やあげ方を教えてもらう。 ○ウサギの世話を教えてもらい、継続的に飼育活動の意欲の向上を図る。 ○長期にわたる飼育活動をすることにより、生命に直接触れる体験を通して、興味や関心をもたせる。 ○ウサギを抱かせて、生命の温かさに気付くようにする。 ○次の活動する日を伝え、気持ちを高める。 ○繰り返し行う飼育活動を設定することにより、ウサギに対する親しみの気持ちを育て愛着をもたせる。
<p>◎獣医さんからウサギの体の仕組みや飼い方を教わる。①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親しみの気持ちが生まれ、生命の尊さを感じている。＜行動・つぶやき＞【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティチャーとして専門の獣医師を招き、ウサギの心音を聞かせることにより、人と同じ命あることに気付かせる。
<p>◎ウサギの様子を伝える。③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギの成長の様子や飼育のできごとを自分なりの方法で友達に伝えようとしている。＜カード＞【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達や、桜木小の友達にウサギの様子を自分なりの伝え方を考えるため、絵や手紙などの伝える手段を助言する。
<p>◎ウサギの立場になって考える。⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気なウサギを育てるために考えたり工夫したりしながら、進んで働きかけている。＜カード＞【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ○「どうしてほしいのかな」とウサギの立場に立って考えさせる。
<p>◎ウサギの世話を通して、友達のよさや自分の成長を振り返る。①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・力を合わせてウサギを育てている友達のよさや自分自身に気付く。＜観察＞【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ○飼育活動では、グループで設定し、お互いに協力することにより、友達のよさを認める雰囲気作りを心掛ける。
<p>◎1年生にウサギの世話を伝える。 （常時活動）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができるようになったこと、役割が増えたことが分かる。＜観察＞【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生と活動する場を設ける。

2 部会研究課題とのかかわり

研究課題(1) 具体的な体験や活動を通して、低学年らしい思考や認識を育成し次の活動へつなげる学習活動を重視する。

○ウサギの飼育活動を通して身近な人々の関わる学習活動

2年子どもたちは、5・6年飼育委員会児童と一緒にウサギの飼育活動を行うことで、餌のあげ方・抱き方・ウサギの名前を覚えてもらい、世話の仕方ができるようになった。さらに、ゲストティチャーとして獣医さんを呼び、体の仕組みや、世話の仕方を専門的にウサギについて教えてもらう。ウサギをもらった熊谷市立桜木小飼育委員会児童とも、交流することにより、親や兄弟ウサギのことを知ったり、世話の仕方を教えてもらったりすることでウサギに愛着を深めることだろう。人との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重し、目的意識や愛的意識をもって多用の方法で交流し合うことを考えた。2月には、1年生にウサギの世話の仕方を教えることにより、自分自身が成長していること、自分ができるようになったこと、役割が増えたことなどが分かると考えた。

○中学年の課題解決学習につなげる学習活動

2年生全員の体験活動になり、「生命をもっていることや成長していること」に気付かせることで生き物への親しみをもち、大切にしようという心情を育つと考えた。体験活動をしていくにあたり、ウサギの立場になり、「ウサギさんはどうして欲しいのか。」考えることにより、ウサギの困り感から課題が出てきて、取り組み、解決していく課題解決学習につながると考えた。ウサギの気持ちになって、飼育を継続し、その中から「もっと元気になってほしい」「餌代が足りない」「ぼくたちが3年生になったらどうしよう」など次々に生まれる課題を自分たちの力で、解決する活動を支え、「ウサギの世話ができる人」という、成就感や満足感をもつことができるだろう。

3 本時の指導

(1) 本時の目標

○獣医師からウサギのことについて教わり、これからもずっと大切に育てようとする事ができる。

(2) 展開 (5/12)

学習活動と内容 (○) 児童の予想されるつぶやき (・)	教師の支援 (○) と評価 (☆)
1 獣医さんを迎える準備をする。 2 獣医さんを紹介する。	○持ち運びをするため、3羽のウサギを段ボールに入れておく。 ○動物の苦手な児童を考慮してグループを考え事前に3つのグループ編成をしておく。 ○動物アレルギーの児童には、事前に保護者と話し合い、マスクをして活動に取り組みさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">獣医さん、ウサギのことを教えてください</div>	
3 むいぐるみと、生きているウサギの違いについて考える。(一斉指導) <ul style="list-style-type: none"> ・温かい ・動く ・心臓がドキドキしている。 4 聴診器で心臓の音を聞く。(一斉指導) <ul style="list-style-type: none"> ○児童の心音を、スピーカーを通して聞く。 ・ドクン、ドクンしているね。 5 ウサギの心音を聞く。(グループ指導) <ul style="list-style-type: none"> ・ウサギのドキドキが聞こえるね。 ・ぼくたちと同じ ・ドキドキがウサギの方が速いね。 6 ウサギのことで獣医さんに聞きたいことを質問する。 7 本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・もっとかわいがる。 ・大切に育てる。 	○担任から、挙手している人を指名する。発表者の声が小さかったり、分かりにくかったりした場合、補足する。 ○ウサギの気持ちを考えて、抱いている子どもを認めたり励ましたりする。 ○グループごとの活動をしやすくするため、獣医さんを囲み、丸く座らせる。 ○ウサギを触るのを怖がる児童が、上手く活動できるように支援する。 ○児童のつぶやきを聞き、困り感に応じて助言したり支援したりする。 ☆獣医師からの話を聞いたり、ウサギを抱いたりしながら、ウサギを大切に扱う。 ○獣医師の話聞く子どもの表情を見取り、授業後に子どもの励みになるように声かけをする。